

## 令和6年度第6回公立大学法人滋賀県立大学役員会議事録

日時・場所：令和6年10月15日（火）15:30～16:00 評議会室

出席者：井手理事長、宮川副理事長、小泉理事、松岡理事、中嶋理事、林理事、高橋理事、山本監事、元永監事

事務局：澤野事務局次長、真溪総務課長、高木財務課長、寺村経営企画課長、川分学生・就職支援課長、郡田教務課長、小椋地域連携・研究支援課長、堀江高等専門学校開設準備室長、前田課長補佐、畑野主事

令和6年度第5回公立大学法人滋賀県立大学役員会議事録（案）は、一部修正のうえ承認された。

### 議題

#### （報告事項）

#### 1 滋賀県公立大学法人評価委員会の第3期中期目標期間終了時の業務の実績に関する評価結果について

松岡理事から資料に基づき報告があった。

#### 〔主な意見・質疑等〕

- ・この評価結果では、本法人の課題が見えにくい。課題意識が持てるような評価体系を学内で検討した方がよいのではないかと。
- 第4期中期目標期間において、従前の法人評価委員会による年度ごとの評価はなくなるが、法人の経営管理のためには、毎年度の計画策定と業務実績の評価が必要であると考えており、特に業務実績に関しては、各課から実績だけでなく、課題についても報告するよう求めることを考えている。
- ・コンプライアンス研修の受講率が低い要因は何か。
- 本法人では、大きくコンプライアンス研修、人権研修、研究倫理研修といった3つの研修があり、これらの研修のうちいずれかの研修を受講すれば良いと考えていた教職員もいたようである。また、未受講者への督促も不十分であった。今年度からは、未受講者に対して受講するよう督促を強化していくこととしている。
- ・学生からの相談記録をどの範囲で共有しているのか。デートDVや言語型セクハラ被害を受けている学生は、知られるのを恐れて学外の相談窓口で相談している可能性もある。外部の支援機関と連携をとり、情報を共有し、本法人における教職員向けの研修と連動させていくといった取組が必要ではないかと。
- 本学には学生相談室、健康相談室、キャリア相談室、障がい学生の支援と4つの支援窓口があり、これらの窓口で情報を共有している。また、本学は学生数に対して教員数が多いため、教員から情報を得ることができるという利点もある。これらで得られた情報を基に、今年度は、学生の自殺対策について教職員を対象とした研修を実施したところである。外部機関との連携については、今後、検討していきたい。
- ・保護者からの相談に対応できる体制の構築を検討してほしい。
- ・法人の自己評価を実施するにあたって、学内から意見聴取をしたはず。その際の学内からの意見と、法人評価委員会による評価との間に類似点などなかったか。
- 調べて次回報告する。

## 2 令和6年度卒業・修了予定者の進路内定状況等について

川分学生・就職支援課長から資料に基づき報告があった。

[主な意見・質疑等]

- ・学生に対する起業支援の体制があるはずだが、起業した実績はあるのか。  
→ベンチャー制度はあるが、申請はなく、起業した学生の実績はない。ただ、起業説明会を開催した際、参加する学生も一定数おり、関心のある学生はいると考えている。

## 3 令和7年度入学者選抜試験の日程について

郡田教務課長から資料に基づき報告があった。

## 4 その他

堀江高等専門学校開設準備室長から高専開設に向けた準備状況について報告があった。